

大学生における就職活動終了後の就職不安低減要因について

宮 谷 朱 音

問題と目的

大学生にとって就職活動は心理的・社会的に自立していくための重要な出来事であり、学生に様々な影響を与える。本研究では、大学4年生の精神的健康維持のために、就職活動終了後の就職不安は精神的健康を損なうのかを検討した。また、精神的健康を損なう就職不安があれば、その就職不安や就職不安関連要因は内定者研修で低減出来るのかを検討した。

方法

2023年10月下旬から12月上旬にかけて、近畿圏内の四年制大学に所属する就職活動を終了した私立文系の大学4年生を対象にグーグルフォームを用いたWeb質問紙調査を実施した。質問紙はフェイスシート（性別、年齢）、就職不安に関連する要因、就職不安尺度、精神的健康尺度、内定者フォローや企業からのアプローチ、就業効力感尺度で構成された。

結果

就職不安尺度に対して主因子法・Promax回転を行った結果「職業興味未確定」「人間関係不安」「仕事期待実現不安」の3因子が抽出された。精神的健康を目的変数、就職不安尺度の下位尺度を説明変数とした強制投入法による重回帰分析を行った。その結果、「職業興味未確定」因子から精神的健康に対する標準偏回帰係数（ β ）が有意であった。また、就職不安関連要因を説明変数、「職業興味未確定」因子を目的変数とした強制投入法による重回帰分析を行った。その結果、働くイメージから精神的健康に対する標準偏回帰係数（ β ）が有意であった。そこで、内定先の志望度と内定者研修カテゴリごとの参加有無を独立変数、就職不安の下位尺度と就職不安に関連する要因を従属変数とした2要因の分散分析を行った。その結果、内定者研修「イベント参加」において、内定者研修の主効果が、働くイメージ（ $F(1, 128) = 4.65, p < .05$ ）において認められた。また、働くイメージが精神的健康に及ぼす影響について、「職業興味未確定」因子が媒介するかを確かめるために媒介分析を行った。その結果、「職業興味未確定」因子の有意な媒介効果が認められた。

考察

本研究の結果から、自分が抱いている仕事への期待と実際の仕事内容が一致しているのかは分からなくとも内定先に対して具体的に期待している仕事内容があれば精神的健康は損なわない可能性が考えられた。このことから、自身の職業的興味・関心を知ることが就職活動を終了した大学4年生の精神的健康維持につながると考えられる。また、内定者研修の「イベント」に参加し、自身が内定先で働いているイメージを持つこと出来れば、自身の職業的な興味関心が決まらなくても不安にとらわれず精神的健康は維持出来ることが考えられた。